

STUDY ガンをみつける犬

盲導犬、介助犬、セラピー犬など、近年様々な役割をもった犬たちが活躍しています。アメリカでは、飼い主のガンを発見したという報告もあるそうです。

教えられなくても自発的にガンを発見することもあるようですが、最近の研究では、犬を訓練すれば悪性腫瘍を見つけることができるようになることも分かっています。もしかしたら将来、ガンを探すのに犬が登場することが、当たり前になるかもしれませんね。

★参考文献★『犬と人の生物学』
スタンレー・コレン／著 築地書館 645

ティーンズコーナー新刊紹介

『もっとやりたい仕事がある!』

池上彰／著・監修
小学館 J366



『わたしのクマ研究』

小池伸介／著 さ・え・ら書房 489



『15歳、ぬけがら』

栗沢まり／著 講談社 711

さくらティーンズのバックナンバーは閉架書庫にあります
見たい人はカウンターへどうぞ!

さくらティーンズ

10月号 (Vol.30)
2017.10.1 発行
武豊町立図書館



わたしたちのよき相棒!

犬の本

『走れ、風のように』

マイケル・モーパーゴ／著

評論社 933/円

走るために生まれた。世界一足が速い犬と言われるグレイハウンド。
数奇な運命をたどった一匹の犬と人間の強いきずなを描いた語。



ティーンズ担当者前書

猫もかわいいですが、犬だってかわいいですよ!今回は、犬が登場する本を集めました。

By よみ

『さよなら、アルマ』

水野 宗徳/著 サンクチュアリ出版 158



偶然見つけた1枚の古ぼけた写真。そこには「祝出征・アルマ号」と書かれた幕の前で、凛々しく鎮座する犬の姿があった。消え去ろうとする過去の事実をもとに、戦場に向かう犬=軍犬と人間の心温まる関係を描く。

『リリとことばをしゃべる犬』

ヴァレリー・デール/著 ポプラ社 953

高速道路のサービスエリアではじまる犬との奇妙なサバイバル生活、親に対する批判的な視線、揺れる思い…。12歳の少女リリが犬と過ごした予想外の夏休みを描く。



『片目の青』

陣崎 草子/著 講談社 720

中学1年生の真矢が千枚山で出会った、片目に傷を負い古い青色の首輪をつけた野犬。保健所と猟友会が野犬捕獲に動きはじめたことを知り、クラスメイトとともに阻止作戦を練るが…。少年の大人への反抗と自然への畏怖を描く。

『レイン』

アン・M.マーティン/作 小峰書店 933/マ

アスペルガー症候群の少女ローズにとって、愛犬レインは心の支え。ところが、巨大ハリケーンが来た日、レインは行方不明になってしまい…。せつなくてやさしい愛の物語。



『モモはどこ?』

アンドリュー・ナップ/著 飛鳥新社 748

野外、町並み、部屋のなか…。かくれんぼが大好きなボーダーコリー・モモが、きみが見つけてくれるのをじっと待っているよ。さあ、モモを見つけられるかな? モモが隠れている、たくさんの写真を収録する。



『<刑務所>で盲導犬を育てる』

大塚敦子/著 岩波書店 326

日本で初めて、刑務所で盲導犬候補の子犬を育てる試みが始まった。犬との日々は人々をどのように変えていったのか。「盲導犬パピー育成プログラム」の立ち上げから7年以上にわたって取材を重ねてきた著者が綴る、希望の書。

